

沿革の概要

明治 9年 12月 19日	麻布宮村町7番地に第2大区第2中学區第27番「公立小學南山學校」と称し開校
明治 27年 12月 28日	麻布宮村町69番地に校舎移転
昭和 2年 10月 22日	麻布宮村町67番地に鉄筋校舎落成移転
昭和 19年 8月 18日	戦時學童疎開を行い、翌年10月復帰
昭和 21年 1月 20日	給食開始
昭和 22年 4月 1日	「東京都港区立南山小学校」と校名変更 新制中学校発足により高等科廃止 新校歌を制定(小林操 作詞 岩波太郎 作曲)
昭和 53年 12月 9日	新校舎落成式典挙行
昭和 61年 6月 10日	プール全面改築完成
昭和 61年 11月 15日	体育館・校庭等全面改築工事完了
平成 3年 8月 31日	校舎外壁塗装工事完了
平成 8年 11月 30日	開校120周年記念式典挙行
平成 15年 11月 21日	港区教育委員会研究奨励校発表会 学力を高める教育活動の工夫
平成 18年 3月 24日	屋上緑化工事完了
平成 18年 10月 28日	開校130周年記念式典挙行
平成 20年 1月 25日	港区教育委員会研究奨励校発表会 一人ひとりの考える力を伸ばす指導の工夫
平成 24年 11月 2日	港区教育委員会研究奨励校発表会 相手を大切にし、思いや考えを認め、高め合う児童の育成
平成 28年 11月 19日	開校140周年記念式典挙行
平成 30年 2月 9日	港区教育委員会研究パイロット園・校研究発表会 育ちと学びをつなぐ幼小連携カリキュラムの工夫
令和 3年 9月 13日	校舎外壁塗装工事・給排水工事完了
令和 3年 11月 20日	開校145周年記念児童集会開催
令和 4年 3月 24日	第142回卒業式挙行 卒業生数(累計)15,019名

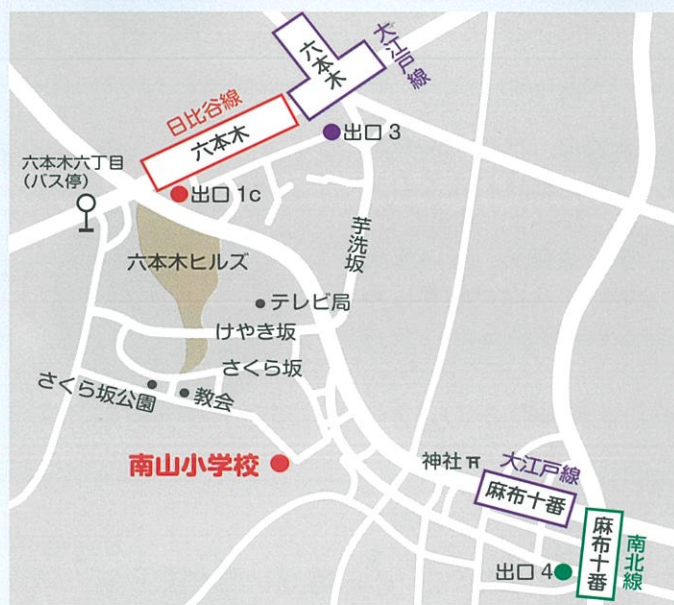
年間行事予定

月	行 事	
4	始業式・入学式 健康診断(～6月)、全国学力調査(6年)	保護者会 地域訪問
5	租税教室(6年) 移動教室(6年)	保幼小合同研修会 学校公開
6	投げ方教室、体力テスト 水泳教室(～9月)	通学路点検
7	有栖川公園見学(1年)、音楽鑑賞教室(1、2年) 夏季学園、終業式、夏季休業	個人面談
8	夏季休業	
9	始業式、歩行者シュミレーター(1、3年) 風呂敷体験(5年) お店見学(2年)	保護者会 学校公開、学校説明会
10	区連合運動会(6年)、社会科見学(5年) 開校記念日、体育発表会	
11	ソフトボール投げ、江戸小紋体験(4年) 社会科見学(4年)	就学時検診
12	音楽会(6年) 漢字・計算パーフェクトテスト 終業式、冬季休業	個人面談
1	冬季休業、始業式 席書会、書初め展	道徳授業地区公開講座
2	漢字検定、起震車体験(3年)	
3	6年生を送る会 3.11を忘れない集会 卒業式、修了式、春季休業	保護者会
毎月	生活アンケート、安全指導、避難訓練	

生活時程

	月	火	水	木	金	土		
8:00	開門(8:00)						8:00	
8:15～8:20	登校時間(8:15～8:20)						8:15～8:20	
8:25～8:40	朝会	安全音楽 集会学級	漢字	計算	読書 (百人一首)	①	8:30～9:15	
8:45～9:30	①	①	①	①	①	②	9:20～10:05	
9:35～10:20	②	②	②	②	②	③	10:05～10:20	
10:20～10:40	中休み 20分						③	10:20～11:05
10:40～11:25	③	③	③	③	③		完全下校 11:20	
11:30～12:15	④	④	④	④	④			
12:15～13:00	給食 45分							
13:00～13:20	昼休み 20分							
13:20～13:35	掃除 15分		13:20 ⑤	掃除 15分				
13:40～14:25	⑤	⑤	14:05 ⑤	⑤	⑤			
14:30～15:15 委員会	⑥	⑥	クラブ 14:20 ⑥	⑥	⑥			
14:40～15:25	完全下校 14:25							
～15:45	完全下校 15:45							

南山小学校アクセスマップ



- ▶ 日比谷線・大江戸線「六本木駅」徒歩7分
- ▶ 南北線・大江戸線「麻布十番駅」徒歩7分
- ▶ 都バス「六本木6丁目」徒歩6分
- ▶ 7-minute walk from "Roppongi Station" Hibiya Line and Oedo Line
- ▶ 7-minute walk from "Azabujuban Station" Namboku Line and Oedo Line
- ▶ 6-minute walk from "Roppongi, 6-Chome" the Capital Bus

教職員構成

職種	校長	副校長	主幹・ 主任・ 教諭	養護教諭	事務	用務主事	栄養士	都費・ 区費講師	特別支援 教室 専門員	English Support Teacher	Native Teacher	サイエンス アシスタント	学校経営 支援員	スクール・ サポート・ スタッフ	スクール・ カウンセラー	図書館司書 ・支援員	学習 支援員	事務補助	校医・ 薬剤師	計
人数	1	1	16	1	1	4	1	5	1	7	1	1	1	1	2	2	3	1	5	55名

児童数・学級数

(令和4年5月1日現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
学級数	2	2	2	2	1	1	10
児童数	51	58	59	45	35	40	288



NANZAN ELEMENTARY SCHOOL
港区立南山小学校
〒106-0046 東京都港区元麻布3-8-15
TEL:03(3403)5773 FAX:03(3408)4532

令和4年度 学校要覧



開校145周年記念児童集会「バルーンリリース」

港区立 南山小学校

NANZAN ELEMENTARY SCHOOL

〒106-0046 東京都港区元麻布3-8-15
TEL:03(3403)5773 FAX:03(3408)4532
http://nanzan-es.minato-kyo.ed.jp

校歌

作詞 小林 操
作曲 岩波 太郎

一 麻布の丘に そびえてたてる
校舎をめぐる 木々の若芽の
しじにのびゆく われらが姿
おおすくすくと 伸びゆく姿
楽しく学ぶ われらはここに

二 南の山の 輝く歴史
星の記章の 空すみわたる
はてなき空は われらが心
おおひろびろと はてなき心
みつみて励む われらはここに

どの子ども伸びる 学びの南山小

～いかそう みがこう きたえよう 心と体と知識技能～

○は令和4年度重点項目



◎目指す学校像

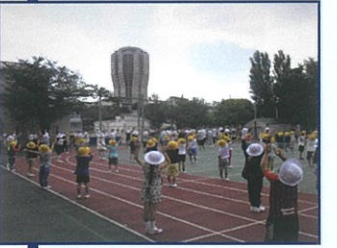
- ・子供一人一人が安心安全に過ごす学校
- ・子供一人一人が学力と体力を身に付ける学校
- ・地域と保護者から信頼される学校
- 組織の力で課題解決を図る学校
- ・教職員が互いに学び合い、高め合う学校

◎目指す子供像

- 自ら学び、考え、判断し、表現できる子
- ・友達と関わりながら学ぶ子
- ・自他の生命を尊重し、思いやりのある子
- ・進んで運動し、健康に親しむことができる子
- ・学校や地域を愛し他者と豊かに関わる子

◎目指す教師像

- ・公教育を担う教師の誇りと自覚、研ぎ澄まされた人権感覚を有する教師
- ・愛情と熱意にあふれ、常に児童理解に努める教師
- 高い専門性と豊かな人間性を備えた学び続ける教師



教育目標： じょうぶで明るい子 よく考え最後までやりぬく子 友だちとなかよく協力する子

徳

友だちとなかよく協力

- 安心安全な居場所づくり
 - ・授業で「安心して発表できる」人間関係の構築
 - ・学びのスタンダードの理解と確実な指導
 - ・たてわり班活動による異学年交流と保幼小中との連携と交流（自己有用感と自己肯定感の向上）
 - ・特別活動の充実（キャリアパスポートの効果的活用）
- いじめをしない・させない・ゆるさない
 - ・差別と偏見を許さない一貫した指導
 - ・道徳教育の充実と心を育てる体験活動
 - ・いじめの未然防止と早期発見、早期対応を重視
- 豊かな人間関係の醸成
 - ・地域の教育資源と人材活用、多様な体験 SDGs の取組（美術館の鑑賞・まちたんけん、地域学習、職場体験、租税教室など）
- 情報モラル教育の推進
 - ・学校、家庭におけるSNSルールの確立と実践



知

よく考え最後までやりぬく

- 分かる喜びとできる楽しさを実感する学び
 - ・質の高い学びの構築と南山スタイルの実践（目標達成に向けた相互交流の評価と支援の在り方）
 - ・思考力、判断力、表現力の向上を重視した授業（学習評価と支援の充実）
 - ・教科横断的な学習の推進（学びに向かう力の育成）
- 学習状況に応じた指導と支援の充実
 - ・安心して学習に取り組む学習集団の形成（学びのスタンダードの確実な定着）
 - ・人的支援を活用した指導の工夫（区講師、都講師、ALT の効果的活用）
 - ・学習状況の把握を重視（板書計画とノート指導、相互交流、ふりかえり、評価と支援）
 - ・区、都、国の学力調査結果に基づき授業改善
 - ・タブレットを効果的に活用した学習活動



体

じょうぶで明るく

- 運動に親しみ運動を楽しむ活動と授業
 - ・「分かる」「できる」「楽しい」体育科指導の授業改善
 - ・体カアップタイムの継続的な取組
 - ・体カテストの実施と結果の活用
 - ・投力の向上
- 体育健康教育の推進
 - ・体力向上の取組・薬物乱用防止教室
 - ・食育の推進・熱中症対策
- 危険の予測と危機回避能力の育成
 - ・防災教育と安全教育の推進（3.11を忘れない集会、交通安全教室、セーフティ教室など）
 - ・感染症に関する正しい理解と実践



特別支援教育の推進

- 誰もが「分かる」「できる」「楽しい」と実感
 - ・サポートシートの効果的活用
 - ・保護者、関係諸機関との連携
 - ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の適宜見直し
- 特別支援教室での指導の充実
 - ・一人一人の特性や発達課題に応じた指導の充実
 - ・個別指導と小集団指導の効果的活用
 - ・巡回指導を基にした担任と報告、連絡、相談体制の確立

組織の力で課題
働き方改革3S
(Slim・Sharp
カリキュラム・マネ

解決を図る学校
・Simple)と
ジメントの推進

国際理解教育 オリンピック・パラリンピック教育

- ESCとの意図的、計画的な交流を通じた異文化理解と自国のよさを再認識（生活文化や食文化など）
- 英語を用いたコミュニケーション能力の育成
- 伝統文化に触れる、体験する場や機会（染小紋、和作法、百人一首、和楽器体験、俳句、障がい者理解）
- アスリートとの交流

思考力・判断力・表現力を育む授業づくり

「考え」「広げ」「深める」授業づくりのために
5つの style を実施します。

Nanzan style

style1

学習の進め方

1 単位時間の学習スタイルで、思考力・判断力を育む。

つかむ (課題把握)

学習のめあてを理解し、
学習の見通しを立てる

今日のめあてが
はっきりしたぞ。

考える (自力解決)

資料を見たり調べたり
して、自分の考えをもつ

こうかなあ。

広げる (検討)

クラスみんなと
学び合う

ここはわからないな。

そんな考えもあるのか。

その考えからいくと
これも考えられる。

まとめる (評価)

分かったことをまとめる
考えの変容に気付く

もう一度
考えて書き直してみよう

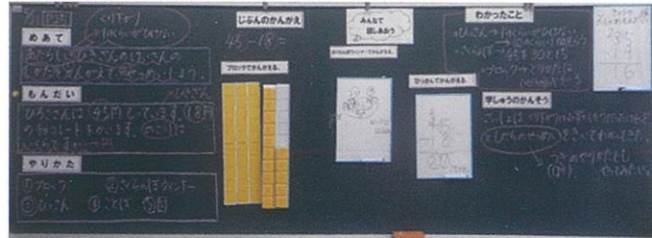
答えが分かったぞ。

学習の過程をとおりて、自分の考えを深めていく

style2

板書

4 5 分間の思考の過程が分かる板書計画を立て、
子どもの「考える」「広げる」をうながす。



つかむ

めあて
本時の学習を端的に表すめあてを設定し、板書する。
キーワードには波線を引くなどして、めあてを明確にする。
問題
学習問題を提示する。

考える

やり方
自力解決を図るために、資料の調べ方や一人で考えるための手だてを提示する。

広げる

みんなで話し合う
子どもたちの考えを提示する際には、ミニホワイトボードや ICT 機器によるノートの提示を活用する。

まとめる

わかったこと **まとめ**
本時の学習に対するまとめを板書する。
たしかめ問題
類題を出し、めあてへの理解を確認する。
学習の感想
本時についての具体的な振り返りを板書する。
振り返りの観点を示す。
観点の例
・話し合いで考えたこと ・学習に生かしたいこと
・友達のよかったところ ・自分の考えがよかったところ

style3

相互交流

検討場面では3つの相互交流を意識的に使い分ける。

Style A ペアでの話し合い



考えたことをさっと
ペアで話し合うことで
短時間で考えを交流
することができる。

Style B グループでの話し合い



様々な考えを伝え合
うことで自分の考えを
広げたり深めたりする
ことができる。

Style C 全体での話し合い



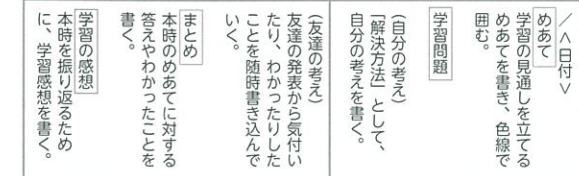
個人やグループの考
えを全体に広げるこ
とで学びを共有する
ことができる。

style4

ノート

見開き 2 ページを基本とし、「問題解決の過程や
学習の振り返り」がわかるようにする。

枠囲みや筆算など線を引くときは定規を使う。
色分けは赤、青鉛筆を使う。



ノートの例

つかむ ← 考える ← 広げる ← まとめる



style5

学習のルール

・学習ルールの共通化を図り、学習規律の確立と学習意欲の向上を図る。

学びのスタンダード

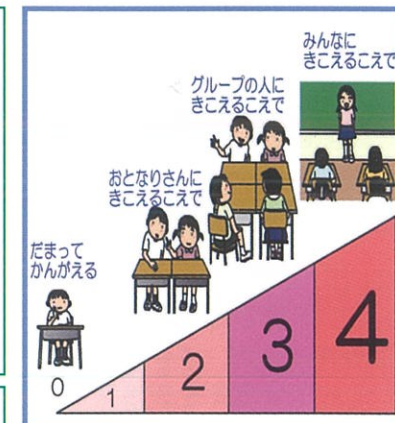
学校で

- 授業の始めと終わりにあいさつをします
- よい姿勢で座ります
- 「声のものさし」に合わせた大きさで話をします
- 最後まで静かに話を聴きます
- 字をていねいに書きます
- 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします

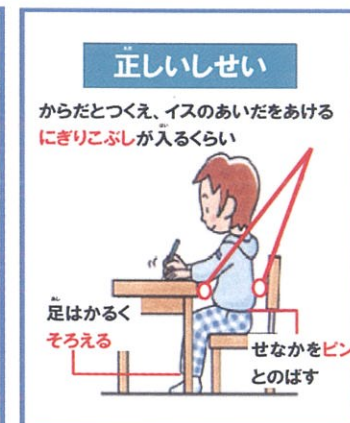
家庭で

- 必要な学習用具は前日までに用意します
- 宿題や家庭学習に取り組みます

声のものさし



正しいしせい



主体的・意欲的に学ぶための学びのスタンダード

日々の授業、教育活動を通して定着させていくための掲示物

・確実に身に付けさせたい学習習慣の根幹となるもの。

令和4年度・5年度 港区教育委員会研究奨励校

研究主題

「主体的・対話的な学習を通して、学びに向かう力の育成を目指して」

～思考力・判断力・表現力を育む授業づくり～

★年6回の研究授業を中心に、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指しています。

保護者に支えられ、地域に認められる学校

様々な価値や個性に触れ、交流を通して
未来をつくる子供たちを育てます。

ESC (English Support Course)

1 ESC (English Support Course) とは……

外国人児童に多様な教育の機会を提供するため、通常の学級に外国人児童を受け入れる ESC (English Support Course) を設置し、ESC の児童に対して英語での授業等を行う学級のことです。

2 対象は……

港区在住の外国人児童（外国籍のみ）で、英語能力を有する児童

- 日本国籍を有する帰国児童や二重国籍児童は、入級できません。
- 入級にあたり英語能力を判定します。英語能力が十分でない場合は、入級できないことがあります。

3 国際学級の特徴は……

- ESC を設置した学級には、日本人児童と外国人児童がともに在籍します。
- ESC には、国際学級講師（EST=English Support Teacher）を配置します。EST は、ESC 児童に対して英語で授業等を行います。
- 日本人児童・外国人児童の双方が、多様な文化や価値観にふれることができます。受入児童数は、1 学年に 10 人以内です。

4 ESC での授業の実施方法とは……

- 2 学級以上になる場合は、1 学級のみ ESC を設置します。（他の学級は日本人児童のみが在籍します。）
- ESC 児童に対して英語で授業等を行う EST を配置します。（EST は学年に 1 人の配置となっています。）

【基本的な学校生活（朝の会、帰りの会、給食など）、社会・理科・生活科（1・2年）・音楽・図工・体育・家庭科（5・6年）の授業】

担任と EST の 2 人の指導で、ESC 児童と日本人児童が同じ教室で学習します。

【国語・算数
の授業】

ESC 児童は、日本人児童とは別室で EST により英語で授業を受けます。

5 国際理解教育の推進を目指して……

- ESC は、担任と EST (English Support Teacher) の 2 人体制での指導により、ESC 児童と日本人児童が同じ教室で学習します。事前に担任と授業内容を確認し、要点を押さえて英訳することで、外国籍児童も日本人児童と同時に学びを深めることができます。どちらの児童にとっても多様な文化や価値観にふれる機会となっています。

6 留意事項は……

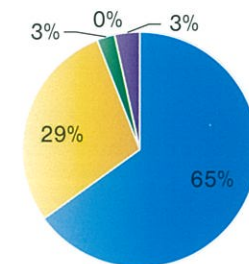
- ESC は、日本児童が英語を話せるようになることを目的とするものではありません。
- 教育委員会では、児童の適正な就学を確保するため、家庭訪問による本人確認や、賃貸借契約書等の「居住を証明する書類」を確認するなど、居住実態の厳正な確認を行っています。

令和 3 年度 学校評価 保護者アンケート 集計結果

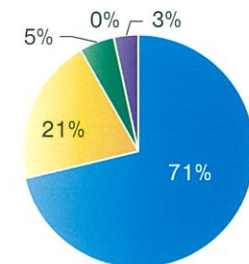
回収率 96% (238人/249人)

■よくあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない ■わからない

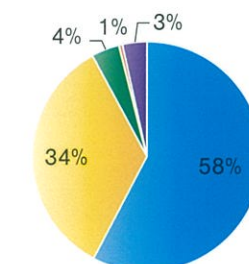
1 学校は子どもに基礎学力が身に付くよう「学び合い」や「認め合い」など、子どもが安心して発言、発表できる授業を行っている。



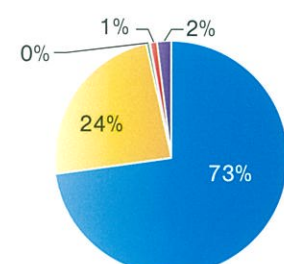
6 学校は、スポーツ選手との交流や音楽コンサートを通して、運動や芸術に親しむ意欲を高めるよう努めている。



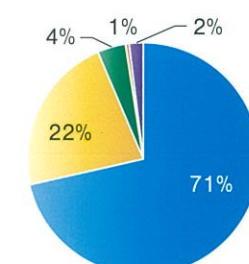
2 学校は、「分かる」「楽しい」授業（学習）を行っている。



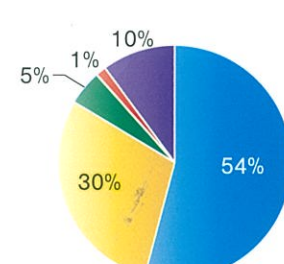
7 学校は、子どもの安全確保や安全対策に様々な配慮を行っている。（避難訓練、防犯訓練、安全指導・点検、セーフティ教室など）



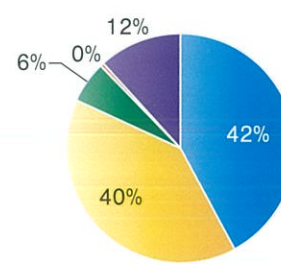
3 学校は、行事や道德の授業、地域の方との交流、あいさつ運動など、互いを認め、互いを大切に心する心の教育に力を入れている。



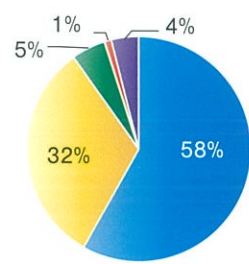
8 学校は、児童一人一人の実態に応じた指導や支援体制の工夫と充実に努めている。（特別支援教育の推進）



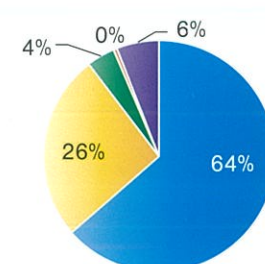
4 学校は子どもの問題や悩み、トラブルなどを見逃さず相談に乗ったり、指導をしたりしていじめや不登校の未然防止に努めている。



9 学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすく、その内容に適切に対応している。（教育相談体制の確立）



5 学校は、国際科で英語によるコミュニケーションを積極的に図り、楽しい授業を行っている。



10 学校が保護者に出す文書や連絡、ホームページなどは、分かりやすく内容も適切である。

